私たちの学校教育改革第13集

「総合的な学習の時間」の充実のために

千葉県教職員組合・学校教育改革推進委員会
ちば県民教育文化研究所・教育課題研究委員会

2007年3月1日発行

ちば県民教育文化研究所　千葉市中央区中央4－13－10　千葉県教育会館　TEL.043（224）0484　発行責任者　石川　貢彦

目　　次

「総合的な学習の時間」から教育改革を
ちば県民教育文化研究所長　石川　貢彦 …… 2
私たちの学校教育改革第13集発刊にあたって
千教組学校教育改革推進委員会事務局長　上釜美由紀 …… 3
1．千教組・学校教育改革推進委員会「諮問内容」 …… 3
2．調査研究の経過 …… 4
3．調査事項（アンケート）の内容 …… 5

「総合的な学習の時間」の充実のために

Ⅰ．「総合的な学習の時間」への思い
1．子どもたちは「総合的な学習の時間」が楽しい …… 6
2．「うちの子は総合的な学習の時間が好き」
小学校保護者の70％ …… 6
3．子どもと保護者の回答の比較・分析 …… 6
4．「指導が大変」と感じている教職員 …… 7
Ⅱ．「総合的な学習の時間」の内容
1．子どもたちはどんな学習をしたか …… 7
2．教職員はどんな学習を実施したか …… 8
3．保護者の理解は子どもから …… 9
4．子どもと教職員の回答の比較・分析 …… 9
Ⅲ．「総合的な学習の時間」と子どもの成長
1．課題解決の力がついた子どもたち …… 10
2．成長した子どもたちの姿 …… 11
―情報収集・発表・討議の力―
3．子どもと教職員の回答の比較・分析 …… 11
Ⅳ．「総合的な学習の時間」で今後学習したい内容
1．社会で生きる力を身につけたい子どもたち …… 12
2．図書室・パソコン教室などハードの充実が課題 …… 13
3．保護者の期待 …… 14
4．教職員は新しい課題に挑戦 …… 15
5．子ども・保護者・教職員の回答の比較・分析 …… 16
Ⅴ．「総合的な学習の時間」の保護者への説明と評価
1．詳しい説明を求めている保護者 …… 17
2．通知表の記述は工夫が必要 …… 18
3．「総合的な学習の時間」は現状で満足 …… 18
4．保護者と教職員の回答の比較・分析 …… 18
Ⅵ．学校・保護者・地域社会の連携
1．強まった結びつき …… 19
2．保護者「できることは協力したい」と積極的 …… 20
3．保護者と教職員の回答の比較・分析 …… 20

提言 …… 21
私たちの学校教育改革シリーズ …… 22
調査研究委員・協力委員一覧 …… 24

「総合的な学習の時間」から教育改革を

ちば県民教育文化研究所
所　長　　石　川　貢　彦

今、ゆとり教育が否定されようとしています。

様々な教育課題からの脱却をめざして生きる力の育成をめざしたゆとり教育から、「学力」偏重の教育へと回帰されようとしています。

「学力」とは何でしょうか。

次年度早々に「全国学力・学習状況調査」が文部科学省によって実施されます。中学校３年生と小学校６年生の国語と算数・数学によってのみ「学力」が測られます。

学校教育の目標は、人格の完成に基づいた自立と社会参加にあるといえます。人格は、多面体であると思います。その中の一面が、読解力であったり、数量的な関係を処理する力であったりするのだと思います。人格の側面は、他の教科の様々な力や人を思いやる力や感性、あるいは人間関係力等々、無限といっても過言ではありません。一部の側面だけで「人」そのものを推し測ることが、学校教育なのでしょうか。

2002年から導入された「総合的な学習の時間」は、不登校や落ちこぼれなどを生んできてしまった詰め込み教育を反省し、課題に対し自ら調べ解決する力を身につけさせるゆとり教育を推し進める施策として導入されました。現在、「学力低下論」が風靡する中で、この「総合的な学習の時間」を削減し、新指導要領も全面的に見直しを行うといわれています。

詰め込み教育の反省は、押しつけた課題を達成感もなく解決させ、結果のみを覚えたかどうかテストし、点数化してきてしまったところにあると思います。今こそ、ペーパーテストの点数アップだけに固執し続けた教育から、自主的に課題を見つけテーマを設定し創意工夫しながら解決していく「総合的な学習の時間」を中心とする教育への変革が求められます。そして、「総合的な学習の時間」の学習から様々な学力を伸ばし、身につけた生きる力によって自立と社会参加を得る道筋を確固たるものにしていくことが大切です。

当研究所は、総合的な学習の時間の充実が人格の完成という視点において重要であると考え、研究を推進してまいりました。本調査研究による提言が、今後の千教組運動はもとより、子どもたちの健やかな成長と確かな学力を育む一助となれば幸甚です。

結びに、本調査研究に携わってくださった皆様に厚く御礼申し上げます。

私たちの学校教育改革第13集
発刊にあたって

千教組学校教育改革推進委員会
事務局長　上　釜　美由紀

千葉県教職員組合は、「総合的な学習の時間」を生かす実践をすすめていくために、ちば県民教育文化研究所へ、「総合的な学習の時間」が学校現場でどのように実践されているのか把握する調査研究を依頼しました。

ちば県民教育文化研究所の調査研究委員会は、2005年７月に「総合的な学習の時間」についてのアンケートを千葉県下の教職員を対象に実施しました。この調査で、各学校では「総合的な学習の時間」の趣旨を生かした創意あるとりくみがすすみ、子どもたちの生活が意欲的になっているなどの成果が表れていることがわかりました。しかし一方では、「総合的な学習の時間」の目標や内容が明確でなく、予算が確保されていない、人的な配置がないなどの課題を抱えていることも明らかとなりました。2006年７月には、さらに千葉県下の子ども・教職員・保護者を対象にアンケートを実施しました。この調査では、殆どの子どもたちが「総合的な学習の時間」は楽しいと答えていました。また、教職員からは、指導が大変と感じながらも、さまざまな力がついていく子どもたちを目の当たりして、やりがいを感じている様子が伺われました。保護者の方々も、「総合的な学習の時間」は現状で満足とし、できることは協力したいと大変積極的でした。

以上のことから、千教組が1979年から提起してきた「総合学習」あわせて現在実施されている「総合的な学習の時間」は、諮問内容にも書かれているさまざまな教育課題を解決していく糸口になるものと考えます。

最後に、私たちの２年間のとりくみに対し率直なご意見・ご叱正をいただければ幸いです。

１．千葉県教職員組合・学校教育改革推進委員会の諮問内容

◆　**諮問内容**　　**各学校における「総合的な学習の時間」の調査研究**

◆　**諮問理由**

「今の子どもたちはなんと不幸なことか。自然から遠ざけられ、労働の喜びも知らず温かい人間の歴史や文化にひたることもなく、頭でっかちのもやしっ子になっている。休みになっても何もせず、テレビの前でゴロッとしている。そんな子が増えている。いったいこれはどうしたことか。」

この文章は、1979年に千教組が発行した「総合学習を創る」が指摘している子どもの状況です。私たち千教組は総合学習の実践を長く呼びかけてきました。

千教組の考える総合学習のねらいは、2000年の「私たちの学校教育改革第Ⅵ集」でもあるように、『生きる力』の育成が主となるが、その根本には、『思いやりの心情』や『豊かな感性』を育成することが必要不可欠なものであると考えています。

また、1998年に刊行された『私たちの学校教育改革第Ⅴ集』では、次のような提起を行っています。

「21世紀の社会は生涯学習社会であり、常に変化する社会の状況に柔軟に対応しながらも、自己実現にむけて学び続けることが大切になります。また、現代社会では、現在の教科・領域の区分の学習だけでは、対応しきれないさまざまな諸課題が山積しています。ダイナミックに変化する社会の中で、学んだことが生きることに即生かされるような学びの場が必要です。さまざまな体験的学習を通し、学びと生活が一致

することをめざす必要があります。」

このように、2002年度からの「総合的な学習の時間」の創設は、総合学習の必要性を唱え続けてきた千教組にとっては、またとない機会であり、大きな期待を持って、迎えられました。このことにより、すべての学校で「総合的な学習の時間」の中で、さまざまな教育実践がなされ、「自ら課題を持ち、主体的に追究する姿が見られるようになった」という声や、「地域に出て、積極的に人に関わることができるようになった」という声などさまざまな成果が学校現場より聞こえてくるようになりました。

しかし、一方で、この時間の創設により、「あらたに人の配置があるわけでもなく、十分な指導が行えない」「教科の基礎基本を身につける時間が削られてしまう」などという声も聞こえてきています。加えて、2005年１月には、文部科学大臣より「総合的な学習の時間の見直し」の発言もあり、2006年度には、学習指導要領の改訂もあり得るという状況となっています。

このような現状をふまえ、「総合的な学習の時間」が各学校でどのように行われているのか調査し、実態を把握することが必要であると考えました。そして、現在行われている「総合的な学習の時間」を千教組の考えている総合学習の理念と照らしあわせていく中で、その望ましいあり方を求めていくことが大切であると考えました。

以上の理由を持って、当委員会は、ちば県民教育文化研究所へ上記の内容を諮問します。

＜研究期間＞

・調査研究委員会（2005～2006）

２．調査研究の経過

ちば県民教育文化研究所は1987年６月に設立されました。その目的は「（研究所規定・目的）千葉県教職員組合の運動方針と教育研究活動を堅持し民主教育を推進する教職員組合と父母・県民との連帯したとりくみをさらに強力・広汎なものに発展させるため、その一環として、千葉県における優れた芸術・文化・教育活動の創造と普及を課題とする活動を推進する」ことにあります。

ちば県民教育文化研究所は、常設研究機関として調査研究委員会と教育課題研究委員会があり、研究活動を担っています。両研究委員会とも研究にあたる委員は現場の教職員であり、研究活動は土曜日・日曜日と長期休暇に行っています。

「総合的な学習の時間」の調査研究は調査研究委員会が担当しました。千葉県教職員組合からの上記の諮問を受け、2005年４月から2007年３月にわたり「総合的な学習の時間」につての実態調査・研究にとりくみました。

2005年度は、2005年７月に千葉県内の教職員450余名を対象に「総合的な学習の時間」についてアンケート調査を実施しました。調査・検討結果は2006年２月に「ちば県民教育文化研究所便り」として刊行し、組合員の皆さんにお配りしました。主な内容は次の通りです。

> 2002年度から「総合的な学習の時間」が本格実施され、学校では子どもたちや地域の実態に応じた教育活動が展開されています。
>
> 今回の調査では、各学校で創意工夫あるとりくみがすすみ、子どもたちの生活が意欲的になっているなどの成果がはっきり出ています。教科を超えた横断的な学習ができる、不足している体験活動を充実できる、学校の独自性が出せる、表現力・調べる力・コミュニケーション能力・自ら考える力など「生きる力」が身についてきているなど学校における意欲的な実践と子どもの変容が浮き彫りになっています。一方では、予算が確保されていない、人的な配置がない等の課題を抱えている実態も出ています。
>
> 「総合的な学習の時間」をいっそう意義あるものにするためには、指導のための打ち合わせや準備の時間の確保、人的な配置増、予算の確保などを教職員は強く望んでいます。

2006年度は、2006年７月に千葉県内の小学校６年生1,474人、中学３年生1,554人、小学校６年生の保護者1,145人、中学校３年生の保護者1,141人、教職員709人、合計6,023人を対象に調査を実施しました。

「私たちの学校教育改革第13集　「総合的な学習の時間」の充実のために」は、２年間にわたる調査の報告書です。2005年度の教職員対象調査に加え、今回は小学生、中学生およびその保護者の意見を聞きました。

千葉県における「総合的な学習の時間」の現状と課題および今後の方策についてまとめたものです。ご検討をいただき、ご意見をいただければ幸甚です。

3．調査事項（アンケート）の内容（調査事項一覧です。詳細は本文をご参照ください）

子どもアンケート

1　あなたは、「総合的な学習の時間」に、これまでどんな学習をしてきましたか。（複数回答）
2　「総合的な学習の時間」は楽しいですか。
3　「総合的な学習の時間」を通して「こんなことができるようになってよかった」と思うことはありますか。（複数回答）
4　あなたは、今後、「総合的な学習の時間」で、どんなことを勉強したいですか。（複数回答）
5　あなたは、「総合的な学習の時間」で学習内容以外のことで望むことは何ですか。（複数回答）

保護者アンケート

1　あなたのお子さまは、「総合的な学習の時間」の内容についてよく話をしますか。
2　あなたは、「総合的な学習の時間」について学校からその目的や活動内容、途中経過などについて説明を受けていますか。
3　あなたのお子さまは、「総合的な学習の時間」が好きですか。
4　あなたは、お子さまの通う学校の「総合的な学習の時間」でどのような学習内容を希望しますか。（複数回答）
5　お子さまの学校の「総合的な学習の時間」の評価は、通知表を通してわかりやすく表現されていますか。
6　あなたは「総合的な学習の時間」を増やしてほしいと思いますか。
7　あなたは、「総合的な学習の時間」を進めていく上で、保護者としてどのような協力が可能と思われますか。（複数回答）

教職員アンケート

1　あなたはこれまで、「総合的な学習の時間」でどのような内容を実施してきましたか。（複数回答）
2　あなたは、「総合的な学習の時間」を通して、子どもたちにどのような変容が見られたと思いますか。（複数回答）
3　あなたは、「総合的な学習の時間」で、これからどのような内容を実施したいですか。（複数回答）
4　「総合的な学習の時間」を実施することにより、あなたの学校の教育活動はどのような変化が見られましたか。（複数回答）

昨年度（2005年）教職員アンケート

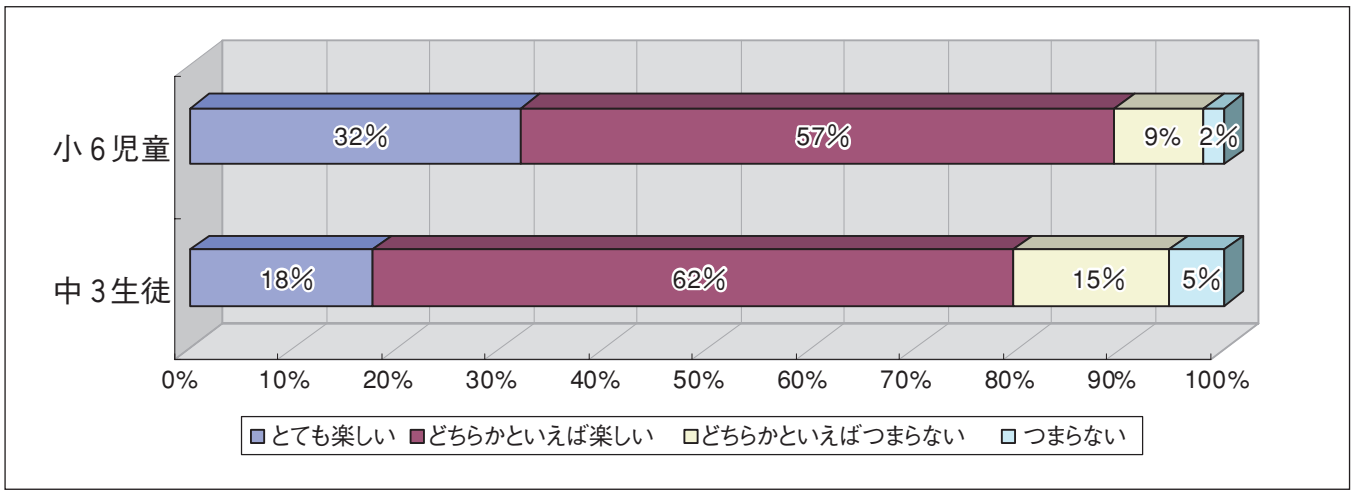
1　「総合的な学習の時間」の指導が好きですか。
2　「総合的な学習の時間」は年間指導計画通り実施していますか。
3　「総合的な学習の時間」を実施する上で、教職員の打ち合わせや準備の時間がとれていますか。
4　「総合的な学習の時間」を実施する上での必要経費が確保されていますか。
5　「総合的な学習の時間」を実施するための、校内の指導体制（協力・分担等）ができていますか。
6　「総合的な学習の時間」を実施する上で、地域の公民館・博物館・図書館など、外部機関との連携を図っていますか。
7　「総合的な学習の時間」のねらいや内容・実施状況などについて、家庭や地域社会に説明や紹介をしていますか。
8　「総合的な学習の時間」の活動について、家庭や地域社会から協力が得られていますか。
9　「総合的な学習の時間」を指導する上で、学区内の小中学校が連携できる組織があり、機能していますか。
10　「総合的な学習の時間」を指導する上で、学区内の小中学校が連携できる組織の必要性を感じますか。
11　「総合的な学習の時間」の評価に自信を持っていますか。また、その理由を簡単に記述してください。
12　あなたは、「総合的な学習の時間」を実践することによって、子どもたちの力が高まったと思いますか。
13　あなたは、「総合的な学習の時間」を行う必要性を感じますか。
14　あなたが見て、子どもたちは「総合的な学習の時間」を行う必要性を感じていると思いますか。
15　あなたが見て、保護者は「総合的な学習の時間」を行う必要性を感じていると思いますか。
16　「総合的な学習の時間」をより充実させるために、改善されるべき条件は何だと考えられますか。

Ⅰ.「総合的な学習の時間」への思い

1. 子どもたちは「総合的な学習の時間」が楽しい

小学生で約９割、中学生で約８割が「総合的な学習の時間」を「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と、答えています。

（子ども）「総合的な学習の時間」は楽しいですか。

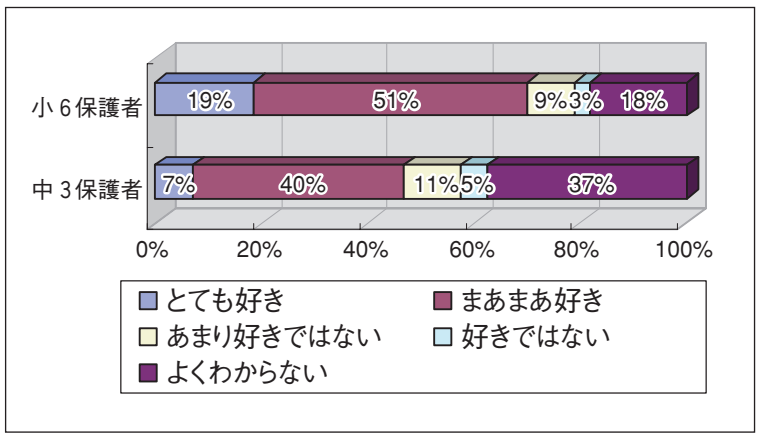


「総合的な学習の時間」のねらいは、①自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること、②学び方やものの考え方を身につけ、問題解決や探求活動に主体的・創造的にとりくむ態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること、③各教科、道徳、特別活動で身につけた知識や技能を相互に関連つけ、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること、です。受身で学ぶのではなく、自主的に学習にとりくみ、「総合的な学習の時間」の目的を生かし、楽しんでいる子どもたちの姿がみえます。

2.「うちの子は『総合的な学習の時間』が好き」小学校保護者の70%

（保護者）あなたのお子さまは、「総合的な学習の時間」が好きですか。

小学校保護者の70%が「とても好き」「まあまあ好き」と答えています。70%という数字は評価できます。保護者にとって我が子は、概ね「総合的な学習の時間」を好んでいるように映っているようです。中学校保護者の47%が「とても好き」「まあまあ好き」と答えています。小学校と比較すると好意的な捉え方が、70%から47%へと減少しています。



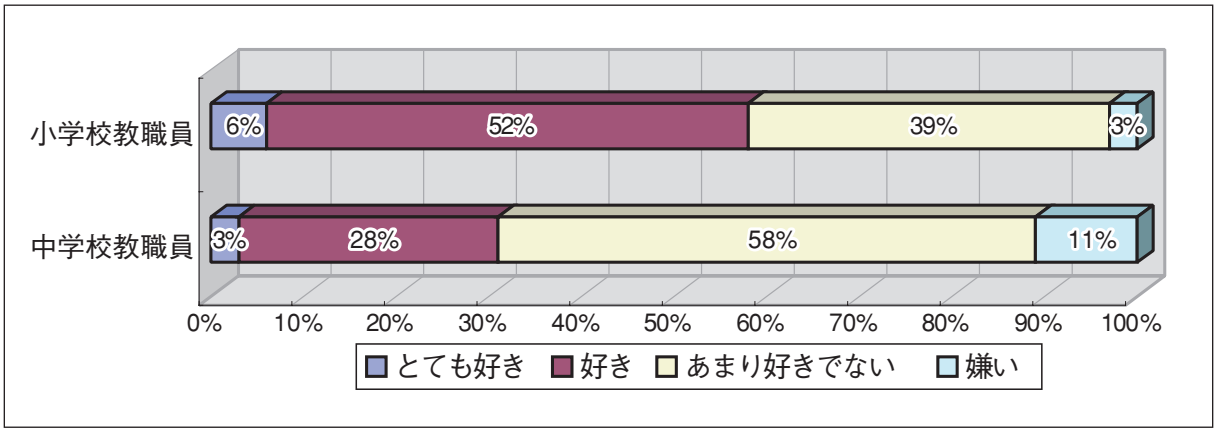
3. 子どもと保護者の回答の比較・分析

「総合的な学習の時間」を「楽しい」と感じている子どもが多く、保護者にも好意的に伝わっている様子が伺えます。中学校では、成績への関心の高まりのためか「よくわからない」と答える保護者が３７%と増加しています。中学校では、より一層各家庭への情報伝達の工夫が求められます。

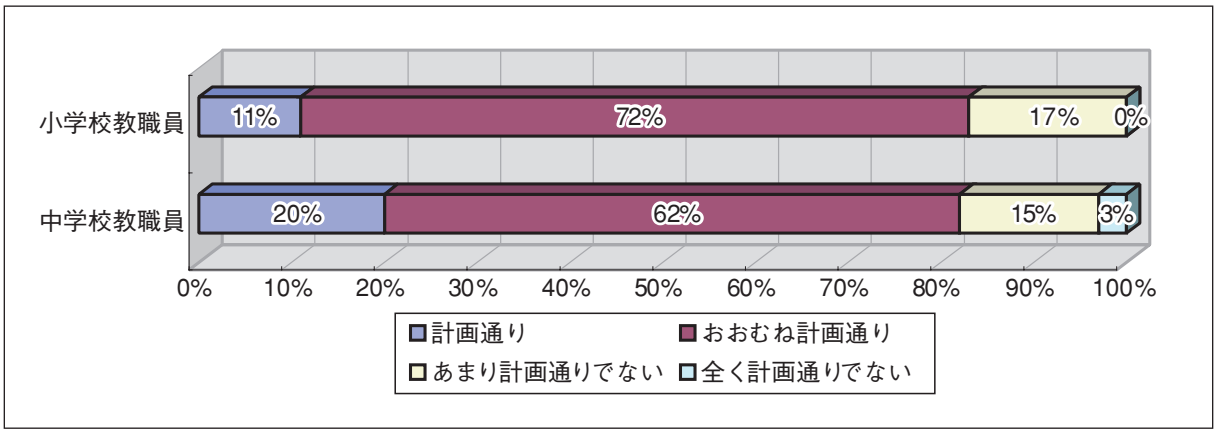
4.「指導が大変」と感じている教職員

「総合的な学習の時間」は、小・中学校とも80%以上の教職員が年間指導計画どおり実施していると回答しており、「総合的な学習の時間」が実施されてから５年と短いものの、着実に学校現場に根付き、計画的に実施され、効果があがっていることがわかります。その一方、昨年度の調査では、「総合的な学習の時間」の指導が「とても好き」「好き」は小学校で58%、中学校で31%でした。子どもたちが「楽しい」と感じている反面、指導する側の教職員は、負担を感じているようです。

（教職員）あなたは、「総合的な学習の時間」の指導が好きですか。



（教職員）「総合的な学習の時間」は年間指導計画どおり実施していますか。



Ⅱ.「総合的な学習の時間」の内容

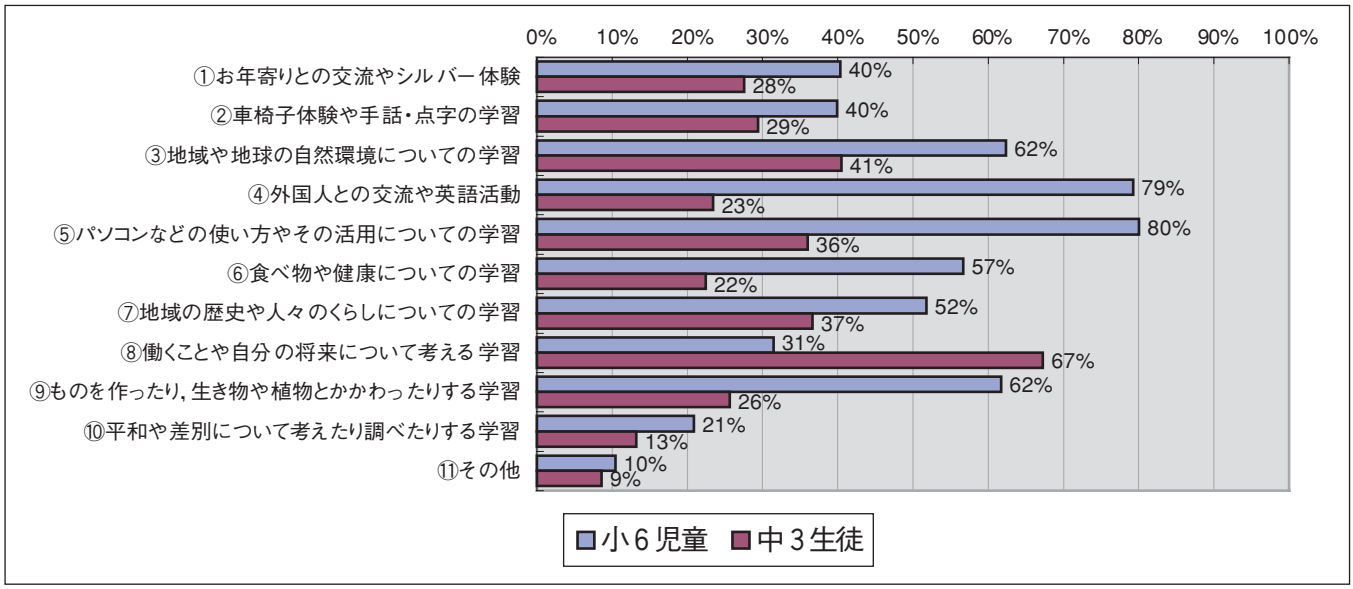
1. 子どもたちはどんな学習をしたか

小学校 外国人との交流、パソコンの使い方、地域や地球の自然環境、生き物や植物とのかかわり

中学校 働くことや自分の将来、地域や地球の自然環境、地域の歴史や暮らし

小学校では、外国人との交流・英語活動に関することや情報教育に関することが約80%と多く、次いで環境や自然、食教育などの内容を多く学習しています。中学校では働くことや自分の将来について考える学習が多く、約２／３の子どもが学習しています。他の項目はどれも30%前後であり、それが各中学校の特色となっています。

（子ども）あなたは「総合的な学習の時間」に、これまでどんな学習をしてきましたか。



小学校で「パソコンなどの使い方やその活用の学習」が多いのは、社会的な要請、保護者や教職員も将来必要と考え、子どもたちにとってもパソコンが身近なものになり、学習の中でインターネットを活用するなど、ニーズが高いからといえます。「外国人との交流や英語活動」は、外国語学習の社会的な要請の高まりがあり、生の英語に接する機会を増やしたALTの存在も大きいようです。「地域や地球の自然環境についての学習」は子どもにとって、生活場面と密接なかかわりがあり、自分が住む地域や地球環境に関心が高く、意欲的にとりくんでいるようです。教科のなかで内容的な学習を経験しており、自主的にとりくむことができるといえます。

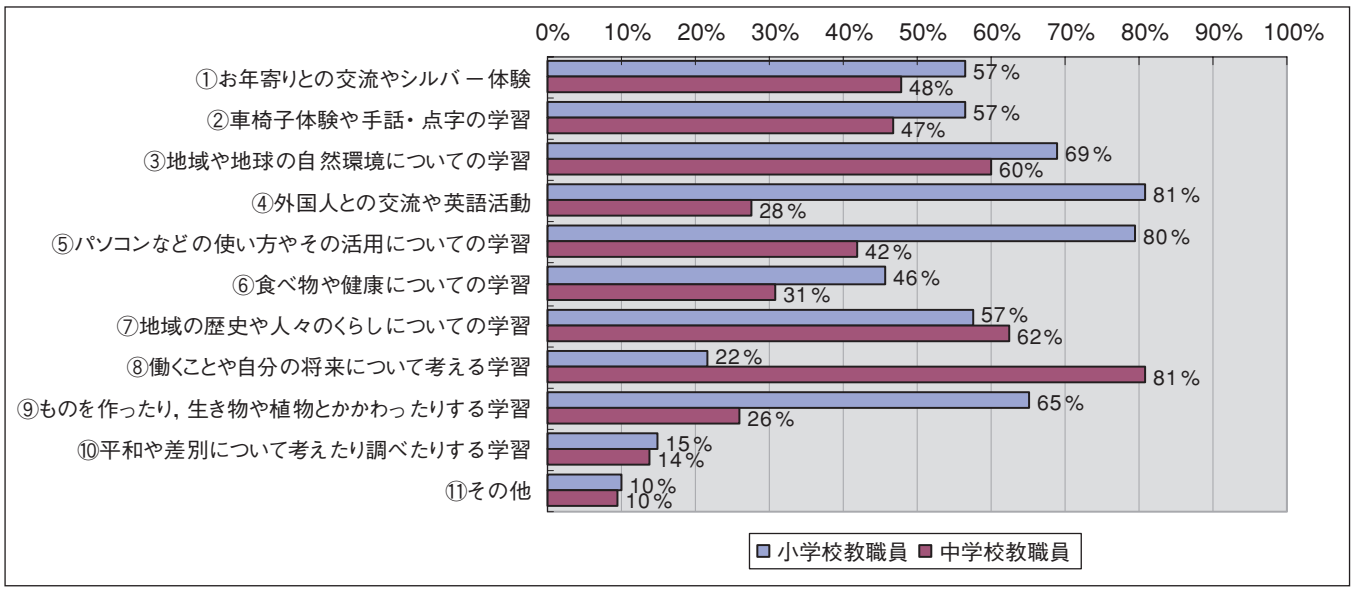
中学校で「働くことや将来についての学習」が多いのは、職場体験学習のとりくみ、自分を見つめ将来の生き方を考える年代であり、進路指導的な要素も十分含みながら時間をかけてとりくんでいるところも多いと思われます。「地域や地球の自然環境についての学習」「地域の歴史や人々のくらしの学習」が多いのは、１年生で内容的な学習を経験しており、子どもたちがテーマを自主的に設定できるようになっているものと思われます。

2. 教職員はどんな学習を実施したか

小学校 外国人との交流、パソコンの使い方　地域や地球の自然環境

中学校 働くことや自分の将来、地域の歴史や人々のくらし、地域や地球の自然環境

（教職員）あなたはこれまで、「総合的な学習の時間」でどのような内容を実施してきましたか。



小学校の実施内容で多いのは、(1)「外国人との交流・英語活動」81%、(2)「パソコンなどの使い方やその活用」80%、(3)「地域や地球の自然環境」69%であり、逆に少ないのは、(1)「平和や差別」15%、(2)「働くことや自分の将来」22%でした。

英語やパソコンについては自治体レベルでのとりくみ（指定や設備の拡充、人員配置など）もあり実施しやすい（あるいはせざるを得ない）ことや、社会的な要請、実践のしやすさなどの理由が考えられます。地域の自然やものづくりについては、「総合的な学習の時間」開始当初から継続的に教材開発や実践などにとりくんできた内容が生かされているケースが多いのではないかと予想できます。

一方、平和問題や働くことなどについては、教職員集団が意識をたかめて学校や学年全体としてとりくむ必要があります。

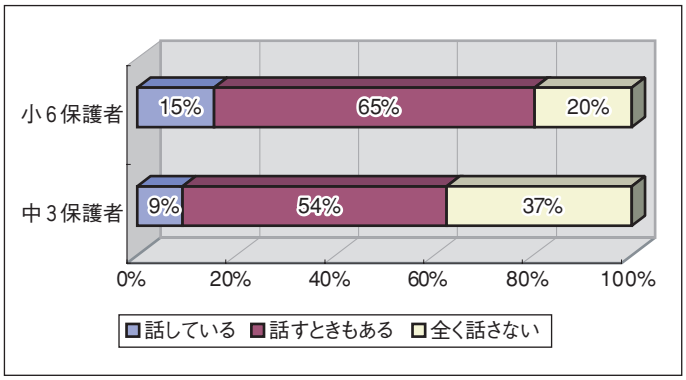
中学校の実施内容で多い働くことについては、多くの中学校で職場体験学習や卒業後の進路についての学習などを実施していることが理由として考えられます。地域にかかわる学習は、小学校と同様に「総合的な学習の時間」開始時から学校として継続して教材を開発・実践してきた積み重ねを生かしているものと考えられます。

一方、平和や英語については教科学習等、他の教科・領域で扱っていることが予想されます。また、ものづくりについては、教科担任制や課外活動など、中学校ならではのカリキュラム上の制約から、柔軟かつ十分な準備・実践の時間の確保が難しいことが影響していると考えられます。

3. 保護者の理解は子どもから

（保護者）あなたのお子さまは、「総合的な学習の時間」の内容についてよく話をしますか。

小学校保護者の80%が「話している」、「話す時もある」と答え、中学校保護者の63%が「話している」、「話す時もある」と答えています。青年期（思春期）に入る中学生になると学校のことを家庭で話さなくなる傾向があります。中学生が家庭で「話している」９%、「話すときもある」54%は中学生の実態を考慮すると評価できる数字といえます。



4. 子どもと教職員の回答の比較・分析
子どもと教職員の意識の違い

「あなたは『総合的な学習の時間』に、これまでどんな学習をしてきましたか」には、小学生と中学生は対照的な結果が出ています。

中学生で最も多い「働くことや自分の将来について考える学習」は、小学生では下位に位置しています。この結果は、小学校教職員と中学校教職員の意識の差も小学生・中学生と一致しているので、発達段階の違いなどの理由からその差が出たものと考えられます。特に中学校では、キャリア教育として職場体験学習を「総合的な学習の時間」の一環として扱っている学校が多く、その印象が強いものと思われます。さらに、中学３年生になると実際の進路指導の時間にも充てられているという実態から、強く感じるのだろうと思われます。

小学生が最も多く学習している「パソコンなどの使い方やその活用についての学習」は、中学生は比較的少なく、これも教職員と一致しているところです。これは、中学校では技術・家庭科の時間に学んでいるためと考えられます。パソコンの設置状況で見ると、中学校では人数に合わせたパソコンの数が足りないこともあげられます。

小学校でも中学校でも学習内容で比較的上位に位置している「地域や地球の自然環境についての学習」は、子どもたちにとって切実な問題であり、報道などによる影響から子どもや保護者の要望も強く、学校の年間指導計画に取り入れている傾向があります。

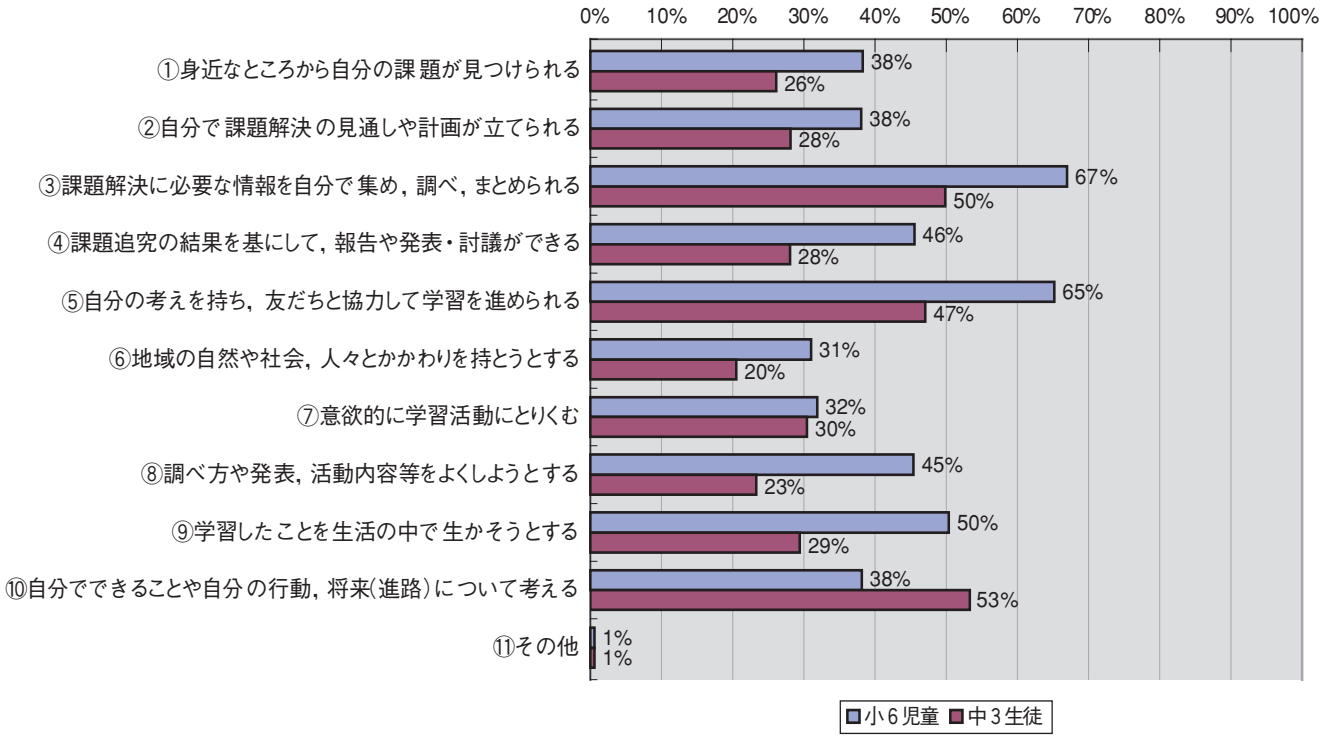
Ⅲ.「総合的な学習の時間」と子どもの成長

1. 課題解決の力がついた子どもたち

小学校（子どもが身につけた力）
- 情報を集め、調べ、まとめられる
- 自分の考えを持ち、協力できる
- 学習したことを生活の中で生すことができる

中学校（子どもが身につけた力）
- 自分でできることや行動、進路を考えることができる
- 情報を集め、調べ、まとめられる
- 自分の考えを持ち、協力できる
- 学習したことを生活の中で生かすことができる

（子ども）「総合的な学習の時間」を通して「こんなことができるようになってよかった」と思うことはありますか。

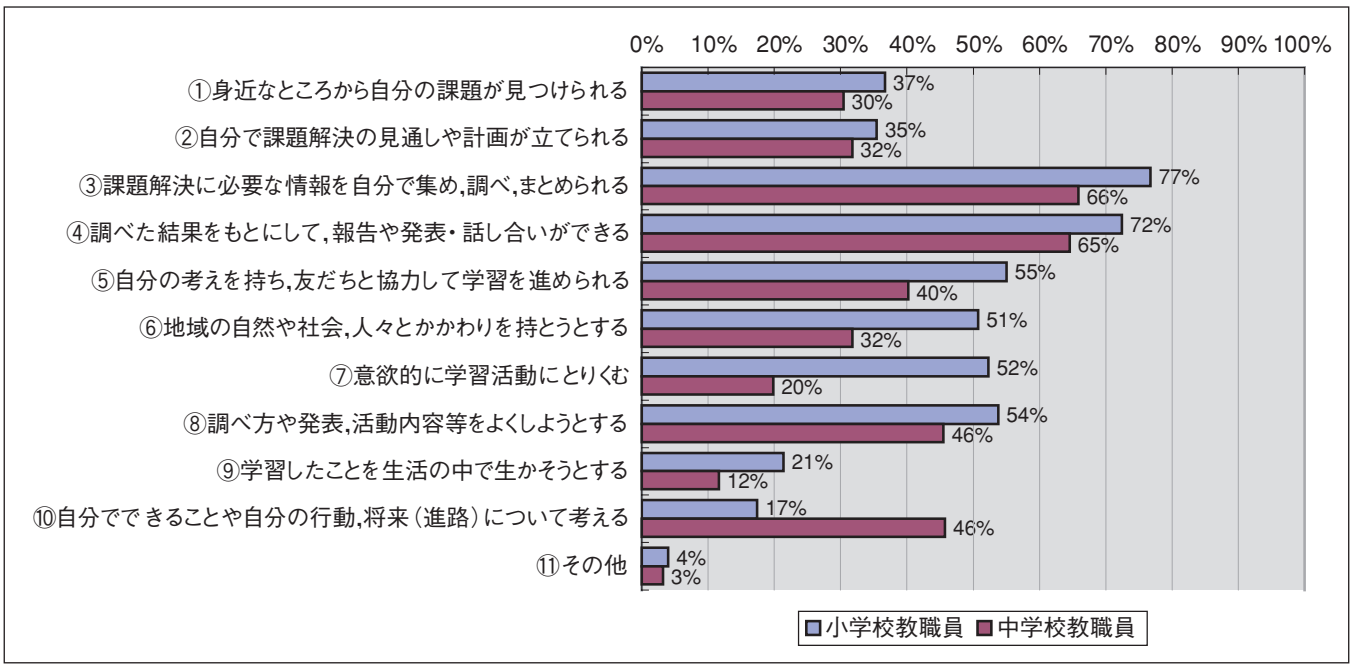


小学校では、「必要な情報を自分で集め、調べ、まとめられる」67%、「自分の考えを持ち、友だちと協力して学習を進められる」65%、「学習したことを生活の中で生かそうとする」50%。この背景を考えると、指導内容も充実したこと、グループ学習で課題解決を行うことが多いこと、例えば、環境学習の成果を発揮し、家庭でも実践しようとする気持ちが育っているなど、生活の中での実践力が向上してきたこと等が考えられます。

中学校では、「自分でできることや自分の行動、将来（進路）について考える」53%、「課題解決に必要な情報を自分で集め、調べ、まとめられる」50%、「自分の考えを持ち、友だちと協力して学習を進められる」47%。この背景を考えると、中学校ではキャリア教育をカリキュラムに位置づけている学校が多く、その成果が表れていること、グループ学習で課題解決を行うことが多いこと等が考えられます。

2. 成長した子どもたちの姿 ー情報収集・発表・討議の力ー

（教職員）あなたは、「総合的な学習の時間」を通して、子どもたちにどのような変容が見られたと思いますか。



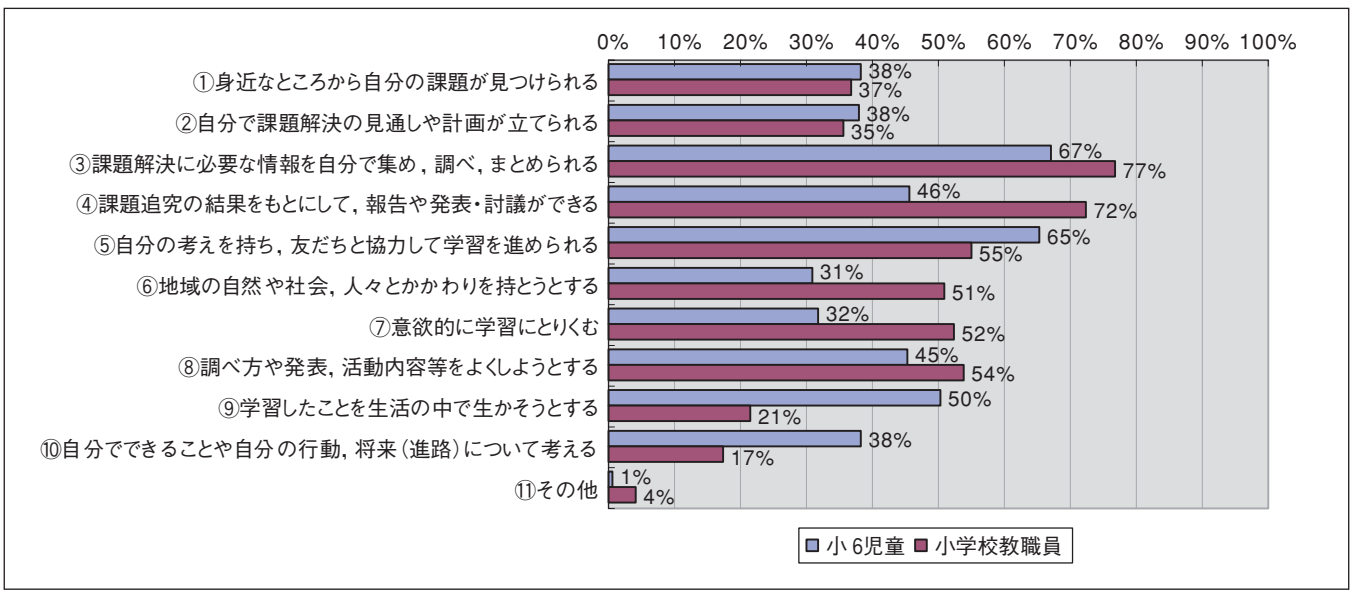
小学校教職員の回答を見ると、「必要な情報を自分で集め、調べ、まとめられる」77%、「調べた結果をもとにして、報告や発表・討議ができる」72%、「自分の考えを持ち、友だちと協力して学習を進められる」55%。この背景は、指導内容も充実したこと、コミュニケーション能力を育むために、調べたことを発表する場を設定していること、グループ学習で課題解決を行うことが多いこと等が考えられます。

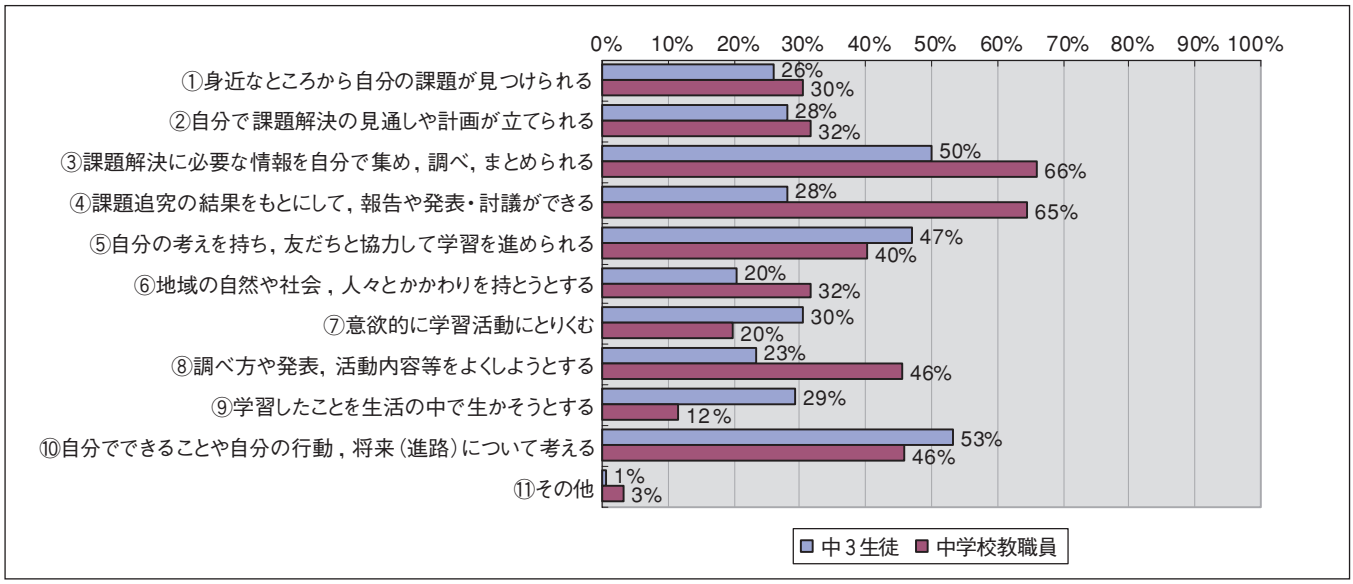
中学校教職員の回答を見ると、「必要な情報を自分で集め、調べ、まとめられる」66%、「調べた結果をもとにして、報告や発表・討議ができる」65%、「自分でできることや自分の行動、将来（進路）について考える」46%、「調べ方や発表、活動内容等をよくしようとする」46%。この背景は、指導内容も充実したこと、コミュニケーション能力を育むために、調べたことを発表する場を設定していること、進路を扱った教育課程を実施していること等が考えられます。

3. 子どもと教職員の回答の比較・分析

（子ども）あなたは、「総合的な学習の時間」を通して「こんなことができるようになってよかった」と思うことがありますか。

（教職員）あなたは、「総合的な学習の時間」を通して、子どもたちにどのような変容が見られたと思いますか。





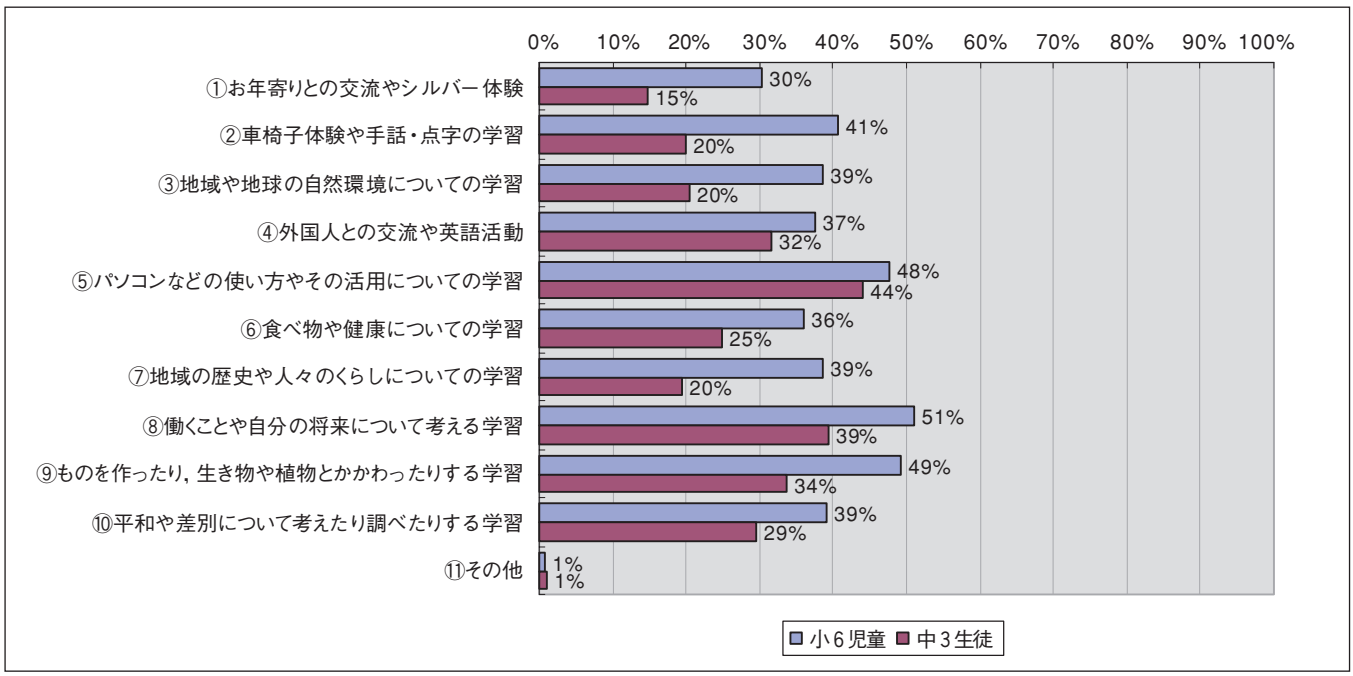
「課題解決に必要な情報を自分で集め、調べ、まとめられる」が小学生では67%、中学生では50%を占めています。また、「自分の考えを持ち、友だちと協力して学習を進められる」も、小学生、中学生、教職員では上位を占めています。一方、「学習したことを生活の中で生かそうとしている」では小学生では50%、中学生では29%。このことから、「自分の考えを持ち調べ学習を行う」という「総合的な学習の時間」の学習方法が見えてきます。その上、子どもも教職員も共に力がついてきたと自覚できることから、「総合的な学習の時間」の特徴、よさとしてとらえることができます。「学習したことを生活の中で生かそうとする」「地域の自然や社会の人々との関わりを持とうとする」の子どもと教職員の意識のズレは、検証しづらい部分であることが影響しているものと思われます。また、「生活の中で生かすとはどんなことなのか」「かかわりを持つとはどんなことなのか」という部分については、子どもと教職員では言葉の捉え方に違いがあるものと思われます。

Ⅳ.「総合的な学習の時間」で今後学習したい内容

1. 社会で生きる力を身につけたい子どもたち

学校生活では体験できない学習を期待する子どもたち
いろいろなことにとりくみたい　パソコン　働くことが大好き

（子ども）あなたは、今後、「総合的な学習の時間」で、どんなことを学習したいですか。



小学生も中学生も、上位３項目は「パソコン」「働くことや自分の将来」「もの作り、生き物や植物とかかわる」です。

小学生では、「働くことや自分の将来について考える学習」は、まだ経験したことのない内容としてめずらしいこととして捉えたり、兄姉に中学生がいたり、先輩の姿を見たりして興味をもっていると思われます。「ものを作ったり、生き物や植物とかかわったりする学習」は、変化の大きいもの、達成感の強いもの、何かに接することなど体験の多い内容なので興味があると思われます。「パソコンなどの使い方やその活用についての学習」は、コンピュータに日頃から関わっていること、ゲームやインターネットなど自分で経験できること、自分の好きなことにとりくめることなどの意識からと思われます。

中学生では、「パソコンなどの使い方やその活用についての学習」は、学校時代の体験が生きること、メディアに対する興味も多く情報収集にはとても必要なことと考えていると言えます。また自分のペースでやることができ、他を意識しないですすめられることも挙げられます。「働くことや自分の将来について考える学習」では、中学生はキャリア教育にとりくんでおり、３年生になると直接の進路に関わる指導があるので、この内容（学習）を望む子どもが多いものと考えられます。

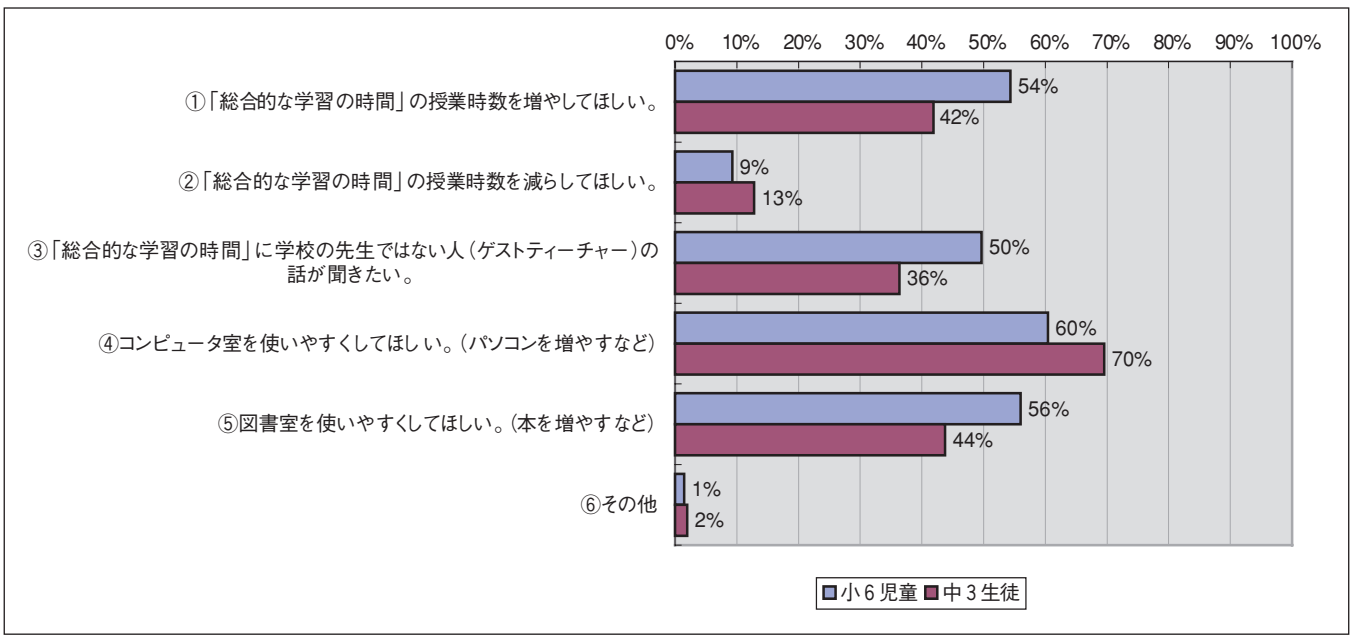
「ものを作ったり、生き物や植物とかかわったりする学習」は、小学校のイメージが残る中、変化がわかりやすいこと、食べることに関すること、生き物に触れることは中学生になっても体験したいこととなっています。普通に学校生活をしている中では体験できないことを期待する部分もあるものと思われます。また、「お年寄りとの交流やシルバー体験」が少なく、職場体験を見ても、老人ホームや施設を希望する中学生は少ないという実態があります。これも福祉に対する意識の低さが要因にあるのではと考えられます。

もの作りで、食べ物を模型的に作ってみたり、野菜や米を実際に作ったりしてみる、家畜を育てるなどの学習を組み合わせる、なども考えられます。

「総合的な学習の時間」の実践を、今一歩教職員が創意工夫をすることにより、子どもたちは更に意欲をもってとりくみ、教職員が「総合的な学習の時間」を好きになれば、子どもが好きになるのではと考えられます。教職員が創意ある活動をするためには、時間と予算を保障することが不可欠です。

2. 図書室・パソコン教室などハードの充実が課題

（子ども）あなたは、「総合的な学習の時間」で、学習内容以外で望むことは何ですか。



「総合的な学習の時間」の時間数の増減については、子どもは、「増やしてほしい」が「減らしてほしい」を大幅に上回っています。子どもたちは「総合的な学習の時間」を好意的に受けとめていることがわかります。

図書室やパソコン室の充実がトップに挙げられています。子どもたちは、自分の課題を解決するためにさらに学習環境の充実を望んでおり、「総合的な学習の時間」における課題解決のスタイルが定着してきていることの現れといえます。

図書室やパソコン室を使いやすくしてほしいという意見が小学校・中学校ともに上位を占めていますが、「パ

ソコン室を」という意見には、多くの学年や学級がパソコン室を使おうとすれば当然重なってしまいます。図書室についても同様のことが言え、さらに蔵書の充実の程度にもよると思われます。調査の結果から、次のことが結論づけられます。

① 子どもたちが調べ学習を行うためには、現状のパソコン室や図書室は、児童生徒の要望を十分に生かすための学習環境整備がされていない。
② 子どもたちは、図書室やパソコン室、ゲストティーチャーなどの情報から、自分の課題を解決していきたいと考えている。(そのような学習に関心が高い。)
③ 子どもたちは「総合的な学習の時間」に楽しさや好奇心を持って臨んでいる。

また、全体的な傾向として、小学生の方が「総合的な学習の時間」に対する要望が多く、「総合的な学習の時間」への意欲が高まっているといえます。

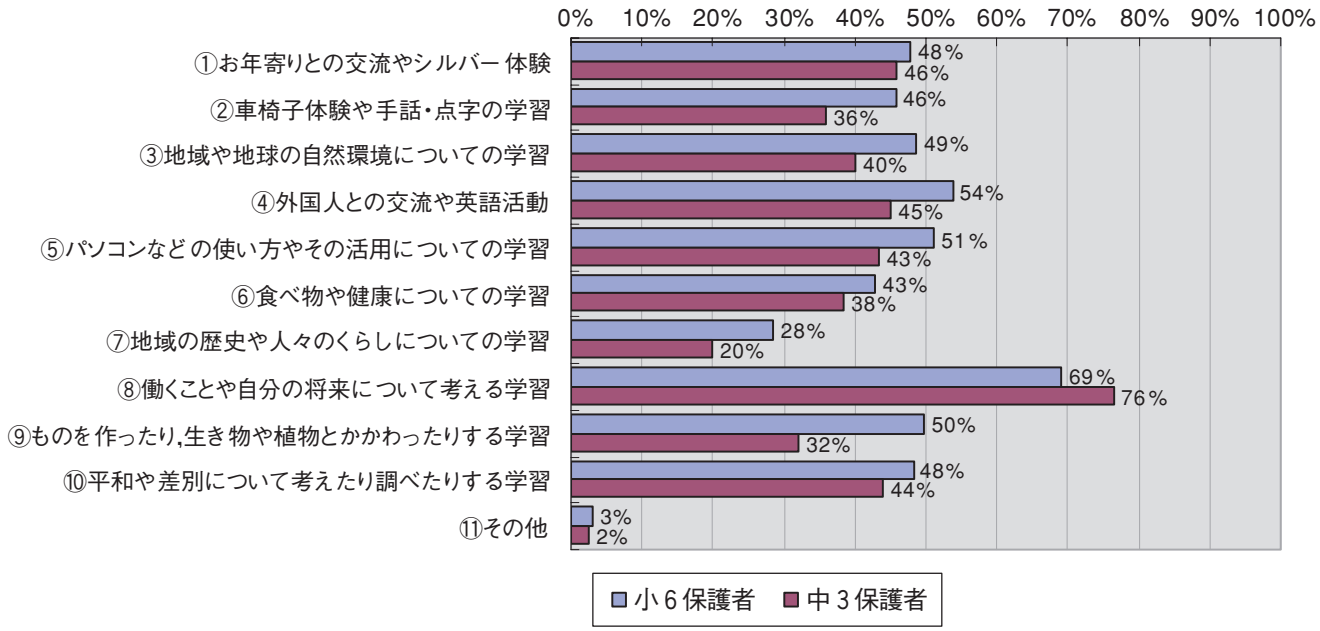
「総合的な学習の時間」のさらなる充実のために、次の事項について緊急に検討し、具体化する必要があります。

① パソコン室の自由解放など、できる限り子どもたちが自由にパソコンを使って調査活動ができる環境を工夫する。
② 図書室の蔵書の中に「総合的な学習の時間」のテーマに即したものを増やしていく。
③ 校外での調査活動や体験活動など、実際に自分たちが体験をしたり外部の方とふれあったりできる活動を多く取り入れる。

①～③を総合すると、子どもたちは課題を解決するための手立ての充実を望んでいることがはっきりします。従って、指導する側がどれだけこの調査・学習環境の充実を図れるかが「総合的な学習の時間」の充実、成功を左右するものとなるといえます。

3. 保護者の期待 ーキャリア教育 異文化理解 高齢者との交流体験ー

（保護者）あなたは、お子さまの通う学校の「総合的な学習の時間」でどのような学習内容を希望しますか。



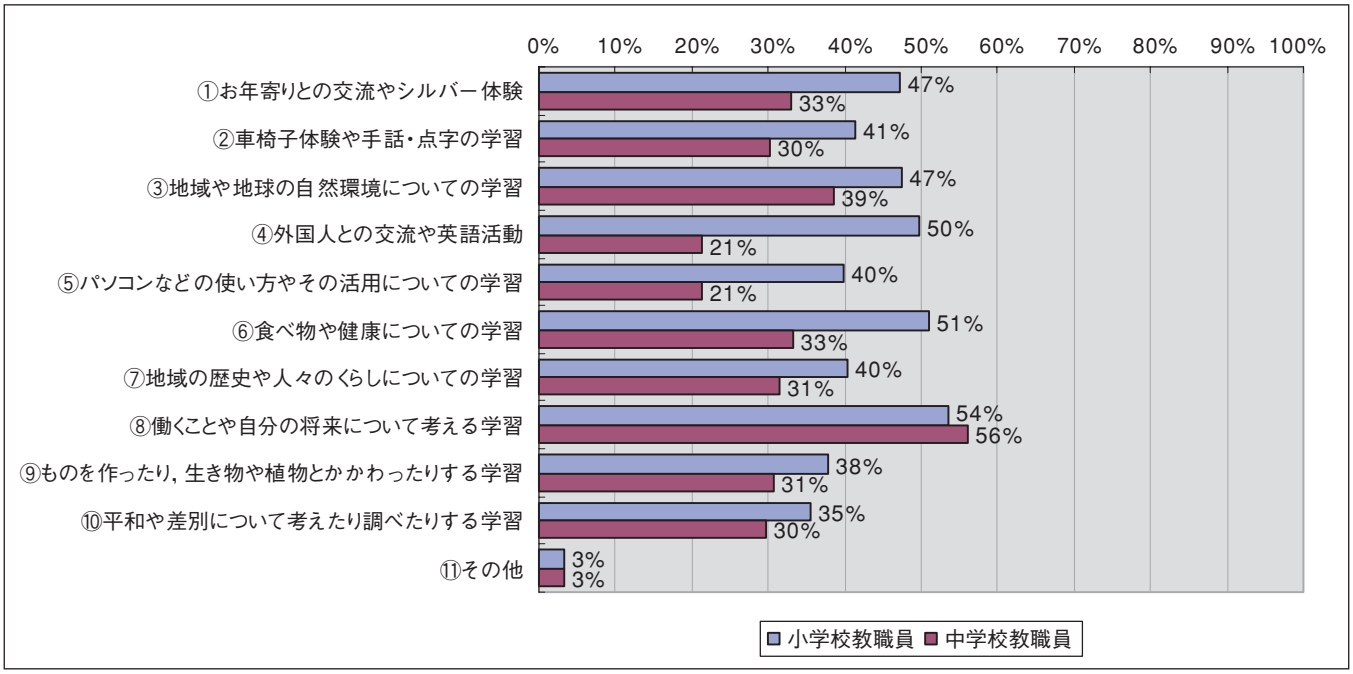
ニート、フリーターなどが社会問題化していることから、「小学校教育から働くことや職業に対する教育が必要」という保護者の要望が考えられます。中学校教育では、進路についても真剣に話し合われる年齢でもあり、重視されていると考えられます。

外国人との交流や英語活動は、国際化する社会で生活する子どもが英語を身につけたり、異文化を理解したりすることを重視している保護者の考え方が反映されています。昨今地域に外国籍の人々が居住することが多くなっている現状からも、異文化を理解することは日常生活的にも必要なスキルと考えているのではないかと思われます。

保護者から要望が多い「お年寄りとの交流やシルバー体験」は、情報化社会とともに、少子高齢化社会の中で、高齢者とのかかわりも重要なスキルと保護者が考え、重視しているためであると考えられます。保護者自身が高齢化することも考えてのこととともありますが、社会のバランスとして多数派となる高齢者との交流や理解が社会の中で重要と考えられていると思われます。

4. 教職員は新しい課題に挑戦

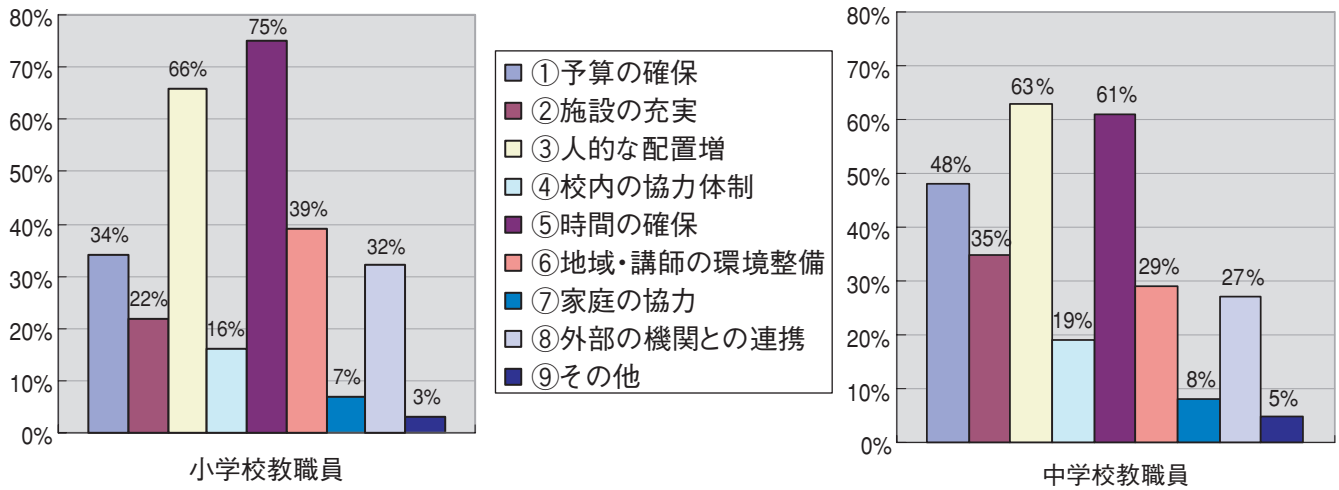
（教職員）あなたは、「総合的な学習の時間」で、これからどのような内容を実施したいですか。



小学校で今後実施したい内容として挙げられた項目を見ると、いずれも大差ない結果となっていますが、その中でも比較的多いものとして、(1)「働くことや自分の将来」54%、(2)「食べ物や健康について」51%であり、「現在あまり実施されていないもの」を今後学習課題として取り上げていきたいと考えていることがわかります。小学校の教職員は新しい課題にも積極的に価値を見出し、とりくもうとする意欲を持って「総合的な学習の時間」に向き合っていると言えます。

中学校で多い項目は、いずれも現在実施している項目で、完全実施後わずか５年目でもあり、より発展、充実させていきたいという願いが読み取れます。少数意見としては、外国人との交流や英語、パソコンなどの使い方や活用であり、いずれも教科内容で扱っていることが大きな理由と考えられます。

（教職員）「総合的な学習の時間」をより充実させるために、改善されるべき条件は何だと考えられますか。



昨年度の調査では、各学校で「総合的な学習の時間」の趣旨を生かした創意工夫あるとりくみがすすみ、子どもたちの生活が意欲的になっているなどの成果が出てきていることがわかりました。しかし一方では、「総合的

な学習の時間」の目標や内容が明確でなく、予算が確保されていない、人的な配置がない等の課題を抱えている実態も出ています。具体的に「総合的な学習の時間」を充実させる条件を尋ねました。複数回答ですが、小学校では要望の多い順に、「時間の確保」「人的な配置増」「地域・講師の環境整備」「予算の確保」。中学校では、同様に「人的な配置増」「時間の確保」「予算の確保」「施設の充実」となっていました。

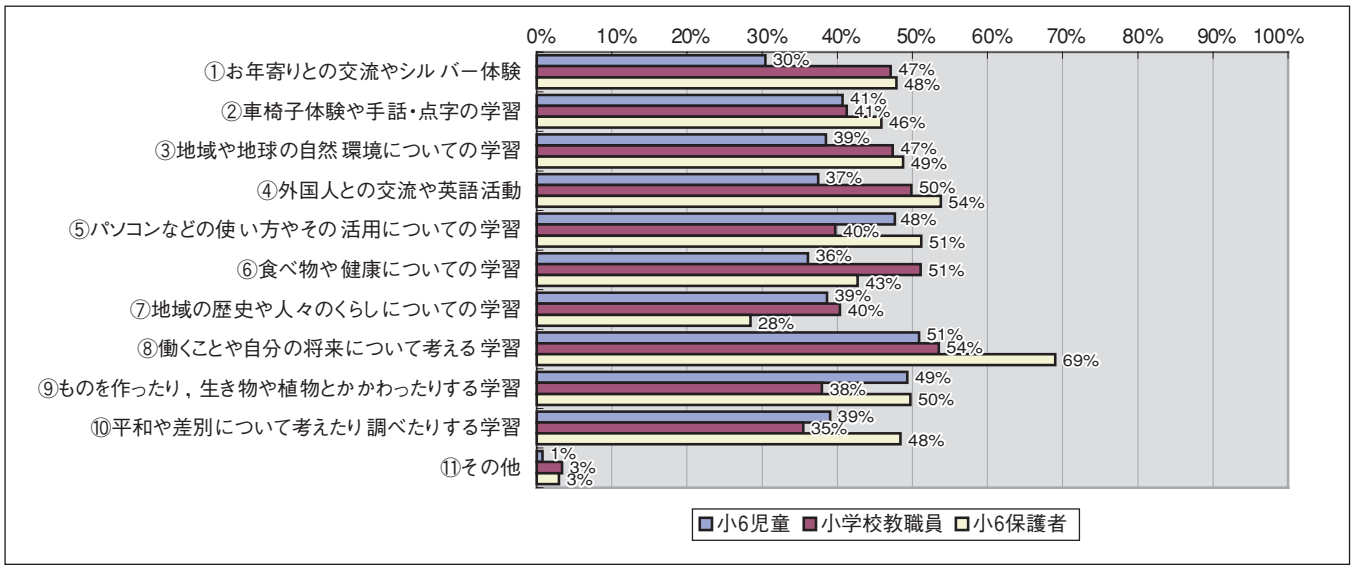
新しい課題にとりくみたいと意欲を持ち、「総合的な学習の時間」をいっそう意義あるものにするために、指導のための打ち合わせや準備の時間の確保、人的な配置増、予算の確保などを教職員は強く望んでいます。

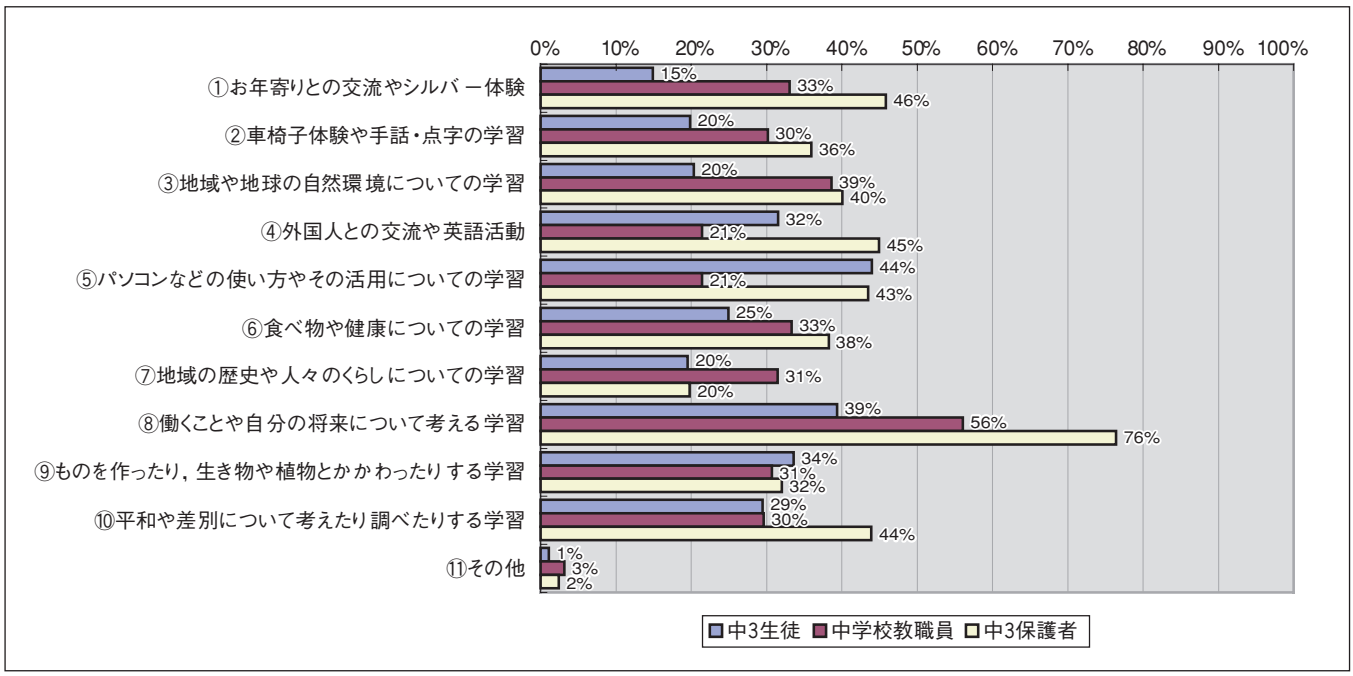
5. 子ども・保護者・教職員の回答の比較・分析

子どもの「あなたは、今後『総合的な学習の時間』で、どんなことを勉強したいですか」と、教職員の質問「あなたは、『総合的な学習の時間』で、これからどのような内容を実施したいですか」と保護者の「あなたは、お子さんの通う学校の『総合的な学習の時間』でどのような学習内容を希望しますか」を比較・分析は次のようにまとめることができます。

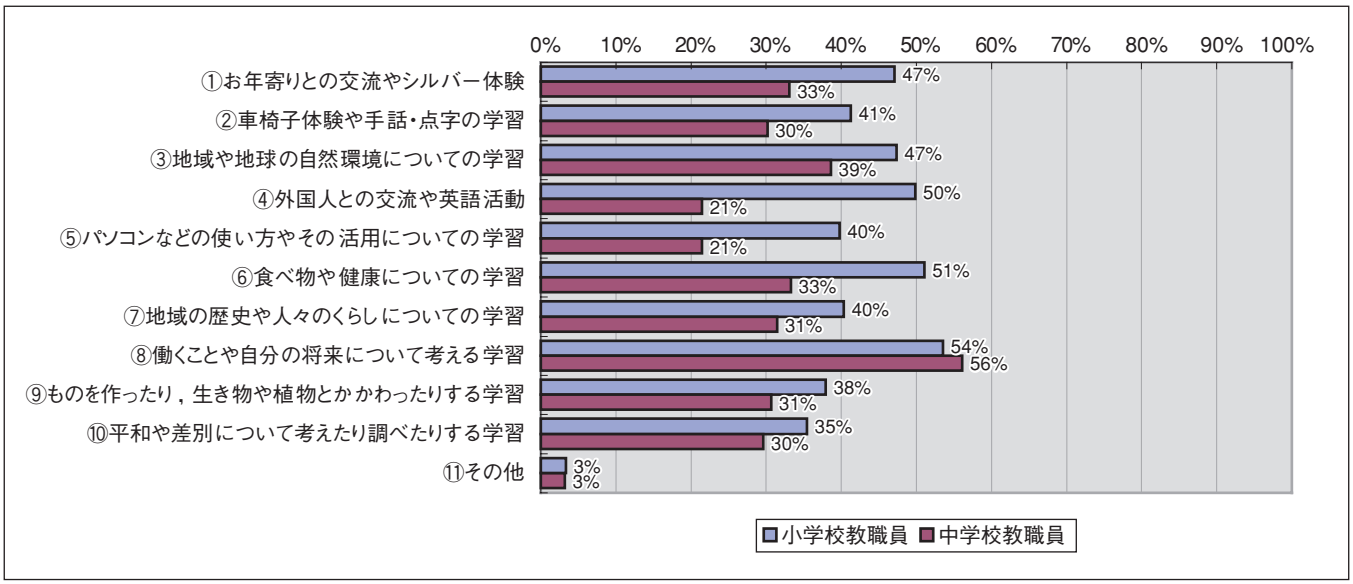
子ども、保護者、教職員が共通して望んでいる内容は、「働くことや自分の将来について考える学習」が非常に多いようです。中学校では、実施している学校が多いにもかかわらず、もっとやりたい、やらせたいという気持ちが結果につながっていると言えます。いずれも、底流にはフリーター、ニートなどの社会的な課題が影響していると思われます。

（子ども）（保護者）（教職員）あなたは、今後、「総合的な学習の時間」で、どんなことを学習したいですか。





（教職員）あなたは、「総合的な学習の時間」で、これからどのような内容を実施したいですか。



子どもと保護者は望んでいますが、教職員は望んでいない内容は「パソコンなどの使い方やその活用についての学習」です。パソコンの必要性が高いことは共通認識になっています。家庭では教えきれないことについて、学校で指導してほしいという保護者の希望があります。教職員は教科学習に時間を集中させたいと考えており、パソコンの活用等に時間を割いて指導することに疑問を持っているようです。

子どもは望んでいますが、中学校の保護者にはあまり望まれていない内容が「ものを作ったり、生き物や植物とかかわったりする学習」です。子どもは、現実にその変化や関わりが楽しいという視点から望む傾向にあります。小学校の保護者は、情緒面や心理面から取り入れたい気持ちが大きいようです。

教職員は望んでいますが、子どもや保護者はあまり望んでいない内容は、「食べ物や健康についての学習」です。教職員は、子どもの実態から生活習慣病等の学習に力を入れたいようです。

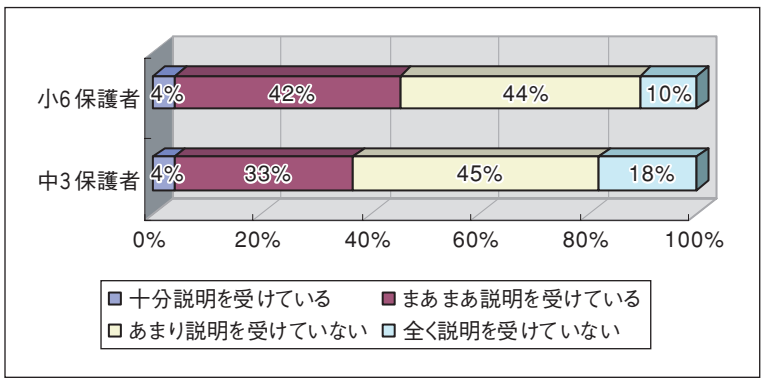
子ども、教職員と比較して、保護者が強く希望しているのは「平和や差別についての学習」です。子どもからはテーマにすることが難しい内容です。学校教育で重視されている教育内容であり、「総合的な学習の時間」で大切な内容としてとり上げていく必要があります。

これら全てを解消するのは難しいものがありますが、その時々に応じて内容を精選して子どもが希望する内容としていく必要があります。また、活動時期についても十分検討していかなければならないといえます。

Ⅴ.「総合的な学習の時間」の保護者への説明と評価

1. 詳しい説明を求めている保護者

（保護者）あなたは、「総合的な学習の時間」について学校からその目的や活動内容、途中経過などについて説明を受けていますか。



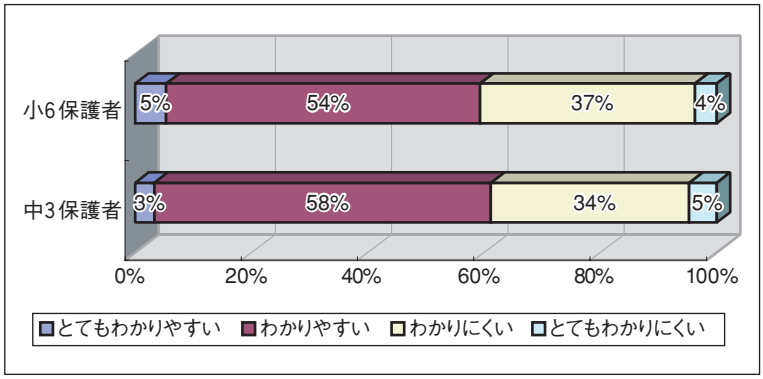
小学校保護者で「十分説明を受けている」「まあまあ説明を受けている」は46%。中学校保護者の「十分説明を受けている」「まあまあ説明を受けている」は37%。学校からの説明は保護者には十分伝わっていないことが伺えます。学校の説明は、全体の動きであることが多いのですが、保護者は、我が子の動きを詳しく知りたい思いがあります。そのギャップから、保護者のニーズに合っていない説明をしていることも要因になっているようです。

今後、学年に応じた保護者への詳しい説明の必要性が求められています。

2. 通知表の記述は工夫が必要

（保護者）お子さまの学校の「総合的な学習の時間」の評価は、通知表を通してわかりやすく表現されていますか。

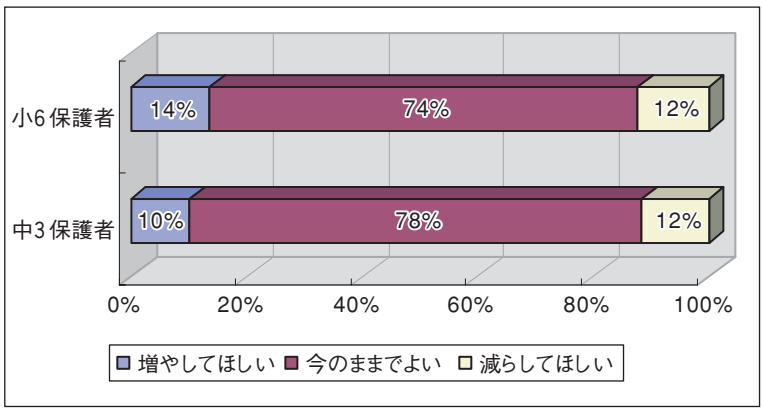
小学校保護者の59%が「とてもわかりやすい」「わかりやすい」と答え、一方で41%が「とてもわかりにくい」「わかりにくい」と答えています。中学校保護者の61%が「とてもわかりやすい」「わかりやすい」と答え、一方で39%が「とてもわかりにくい」「わかりにくい」と答えています。



3.「総合的な学習の時間」は現状で満足

（保護者）あなたは、「総合的な学習の時間」をふやしてほしいと思いますか。

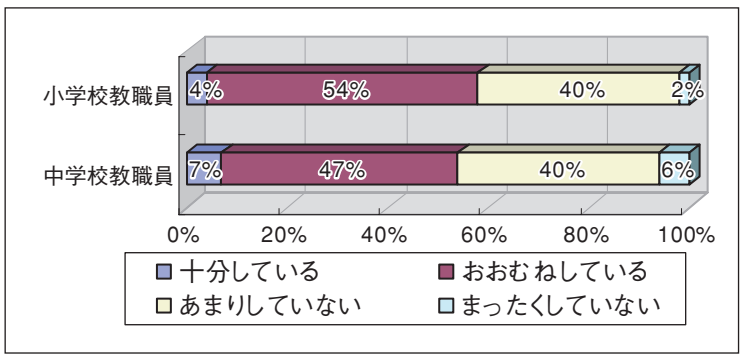
小学校、中学校とも現状のままが３／４を占めています。このデータから言えば、保護者は、現状の「総合的な学習の時間」に満足しているといえます。



4. 保護者と教職員（学校）の回答の比較・分析

（昨年度教職員）「総合的な学習の時間」について、家庭や地域社会に説明や紹介をしていますか。

「総合的な学習の時間」の学校からの説明について、保護者は小学校では約46%、中学校では37%が「十分説明を受けている」「まあまあ説明を受けている」と答えています。一方、昨年度実施した教職員アンケートの結果を見ると小学校では58%、中学校では54%の教職員が、家庭や地域社会に説明や紹介を「十分している」「おおむねしている」と答えています。教職員は説明を果たしていると思っている人が多いが、それを受け取る保護者の方は、十分に説明を受けているとは思っていないという教職員（学校）と保護者の意識にズレが生じています。



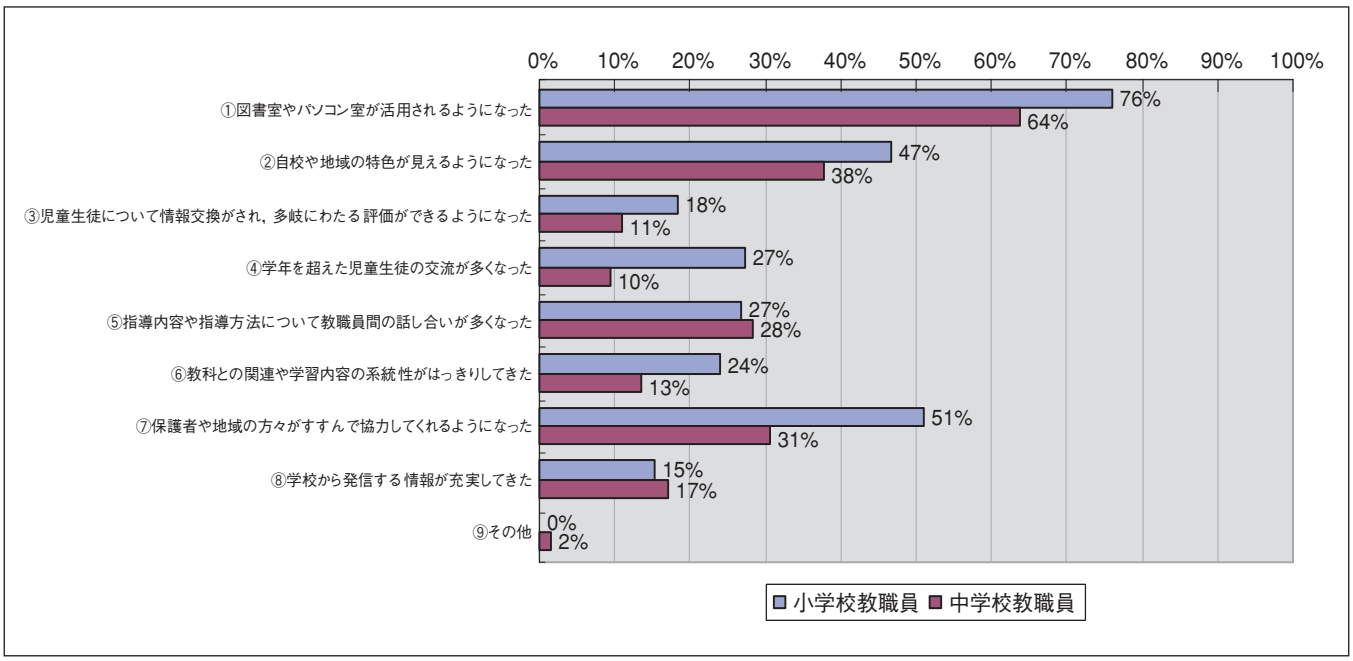
「総合的な学習の時間」の評価について、通知表を通してわかりやすく表現されているかについて、「とてもわかりやすい」「わかりやすい」が小学校では59%、中学校では61%あります。小中とも保護者は60%が好意的にとらえています。保護者は、学校は「総合的な学習の時間」について説明を十分にしてくれないが、通知表の記載内容はわかりやすく、そこから「総合的な学習の時間」の我が子の様子を知ることになる、というのが実情のようです。

「総合的な学習の時間」について、学校からどのように知らせて欲しいかという保護者の主な要望を見ると、「所見の欄を増やし、もう少し詳しく記述して欲しい」、「子どもの感想を知りたい」、「さらに詳しく学習内容を知りたい」という保護者の思いを推し量ることができます。一方、「評価すること自体、疑問である」という傾向も見られます。これは、「総合的な学習の時間」の意義を踏まえた上で、「評価できない学習ではないか」という積極的な考え方、「そもそも総合的な学習自体が不要である」「記述内容がよくわからない」という消極的な考え方も少数ですがありました。

Ⅵ. 学校・保護者・地域社会の連携

1. 強まった結びつき

（教職員）「総合的な学習の時間」を実施することにより、あなたの学校の教育活動はどのような変化がみられましたか。



小学校では、「総合的な学習の時間」実施による効果に「保護者や地域の方々が進んで協力してくれるようになった」51%、「自校や地域の特色が見えるようになった」47%をあげ、保護者や地域との結びつきが強くなっていることがわかります。小学校保護者は「学習に関わる情報の提供」はもちろん、「子どもたちの引率の協力」「学習の補助」と、実際に教職員とともに「総合的な学習の時間」の指導に参加をしていく協力が上位にきています。

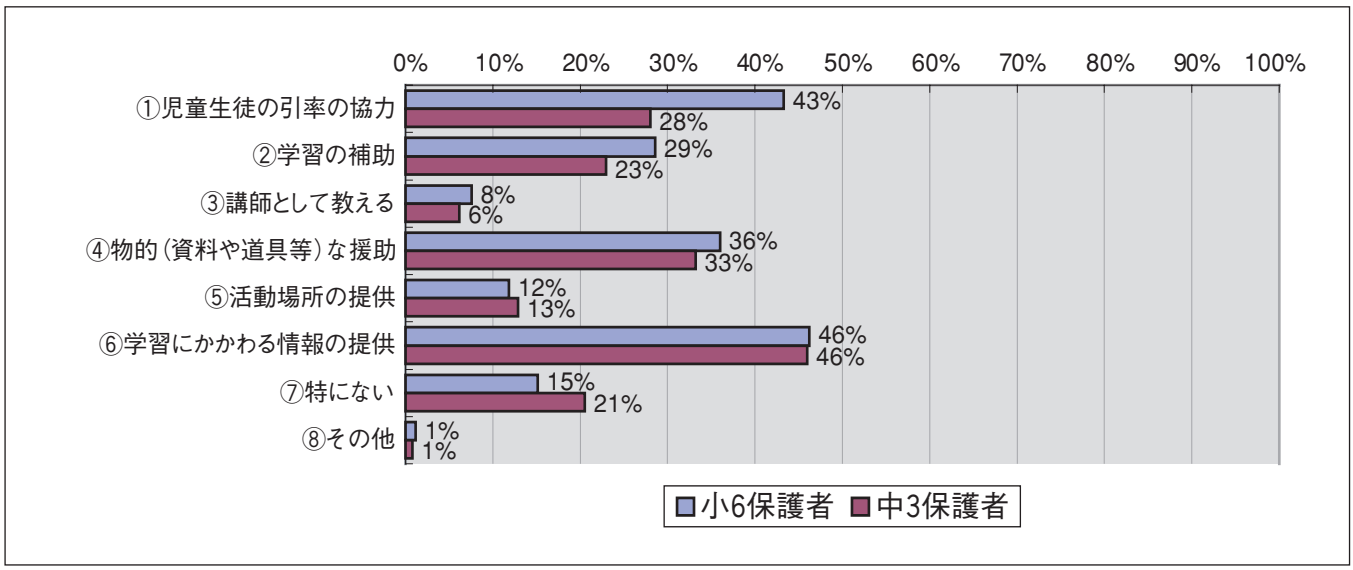
中学校でも、数値は低いものの同様の傾向は見られます。

「総合的な学習の時間」で、「開かれた学校」、「保護者や地域との連携」という点で、本来の目的以外の効果が上がっていると言えます。

また、小・中学校ともに、図書室やパソコン室が活用されるようになったと回答した教職員がトップであり、「総合的な学習の時間」の実施によって、教科学習用の教室以外の使用頻度が大幅に増え、学習のスタイルが多様化していることを示しています。

2. 保護者「できることは協力したい」と積極的

（保護者）あなたは、「総合的な学習の時間」を進めていく上で、保護者としてどのような協力が可能と思われますか。



保護者は、「情報提供」が小・中学校とも最も多く、ほぼ半数が協力できるという回答です。また、引率や補助など、直接は携われないができることは協力をしようという保護者の意識は高いと言えます。

「引率」「物的支援」「学習の補助」など、学校に足を運んで協力をしようという積極的な姿勢がうかがえます。教職員の補助として学習活動に関わっていこうという協力的な姿勢が、「総合的な学習の時間」の実践から生まれていると評価できます。こうした保護者の積極的な協力姿勢に、学校側がどのように対応していくかが課題といえます。

3. 保護者と教職員の回答の比較・分析

小学校教職員は、「総合的な学習の時間」実施による効果に「保護者や地域の方々が進んで協力してくれるようになった」51%、「自校や地域の特色が見えるようになった」47%をあげ、保護者や地域との結びつきが強くなったことをあげています。

小学校保護者は「学習に関わる情報の提供」46%、「児童生徒の引率の協力」43%、「学習の補助」29%と、実際に教職員とともに「総合的な学習の時間」の活動に参加をしていく協力が上位にきています。中学校でも、数値は低いものの同様の傾向が見られます。

「総合的な学習の時間」によって、「開かれた学校」・「保護者や地域との連携」という点で、効果が上がっていると言えます。特に小学校では、ほぼ半数の教職員が「保護者や地域の方々が進んで協力してくれるようになった」と回答し、保護者の半数近くが、「引率で協力できる」と回答しています。

保護者アンケートでは、「情報提供」が小・中学校ともに１位であり、ほぼ半数ができるという回答です。引率や補助など、直接は携われないが協力をしようという保護者の意識は高く、学校・教育行政がどのように対応していくかが課題です。

調査研究委員会から提言

今回（2006年７月）の調査から、千葉県の小・中学生は「総合的な学習の時間」が楽しいと感じ、時間数を増やし、課題を解決してく力を身につけたいと考えていることがわかりました。小学生は「情報収集やグループで協力して課題解決ができるようになってよかった」、中学生は「自分でできることや自分の行動、将来（進路）について考える力もついた」と答えています。

保護者は、「『総合的な学習の時間』が楽しく、子どもたちの将来に役立つ力のつくもの」と考え、できることは協力したいと考えています。そして「働くことや自分の将来について考えること」についての学習を強く望んでいます。

教職員は、「総合的な学習の時間」でいろいろな力が子どもたちに身についてきていると感じていますが、多忙の中で打ち合わせ時間も取れず、人的・物的な環境が整備されていない現状に負担も感じています。一方で、新しい課題に挑戦したいと考えていることも事実です。

子どもたちは、「総合的な学習の時間」で、教科学習では得られない満足感や「生きる力」を身につけています。私たちが「総合的な学習の時間」で子どもたちに身につけさせたかったことは着実に実を結び、楽しい学校づくりは確実にすすんでいます。「総合的な学習の時間」の一層の充実を、私たちは期待します。

２年間にわたる調査から、「総合的な学習の時間」のさらなる充実のために、私たちは次の提言をします。

１．体験的な学習や自分の将来を考える学習をどんどん取り入れ、学習内容の改善・充実をはかりましょう！

子どもたちは、「社会で生きる力を身につけたい」と願っています。学習内容としては、「パソコンなどの使い方やその活用」「働くことや自分の将来」についてもっと学習したいと望んでいます。

保護者は、「わが子の将来を考えた学習内容」を願っています。「働くことや自分の将来について考える学習」「外国人との交流や英語活動」「お年寄りとの交流やシルバー体験」など、わが子の人生をより豊かにする学習、将来役立ちそうな学習を望んでいます。

体験的な学習や将来の自分を考える学習をどんどん取り入れましょう。

２．施設・設備の充実をすすめるため、教育行政へのはたらきかけを強めましょう。

子どもたちは、「総合的な学習の時間」の学習スタイルを身につけています。そのため、図書室やパソコン室のさらなる充実を望んでいます。これらの施設・設備の充実には二つの方法があると考えます。

一つ目は、ハード面の充実です。パソコンの台数を増やすこと、インターネット環境を向上させること、図書室の蔵書の種類と数を増やすことが考えられます。

二つ目は、指導する教職員の情報リテラシーの向上などソフト面の充実です。コンピュータを十分使いこなせる技能の習得、子どもたちが図書室を有効に活用できる指導者の育成が考えられます。

３．　保護者にもっとアピールしましょう！

子どもたちは、「総合的な学習の時間」を「楽しい」と思っています。保護者も総合的な学習の時間を好意的に受けとり、期待している反面、「どのような学習をしているのかよくわからない」という意見もあります。

「総合的な学習の時間」の理解を得るために、保護者にもっとわかる説明、伝わる説明をしましょう。通知表の記述や評価方法の工夫、学校・学級通信などを含めた広報活動の推進などが考えられます。

ちば県民教育文化研究所発行
私たちの学校教育改革シリーズ

ちば県民教育文化研究所は、教育現場での毎日の実践を基本に、「子どもを主人公とする生き生きとした学校づくり」「子ども・教職員にゆとりある学校」をめざして「私たちの学校教育改革」を毎年刊行してきました。今年で第13集になりました。

2002年3月以後発行しました「私たちの学校教育改革シリーズ」をご紹介します。その時、その時の現場の課題をとりあげ研究したものです。ご活用いただくようお願いします。残部が少々ありますので、必要な方はご連絡ください。

私たちの学校教育改革　第８集　2002年3月発行

―総合学習との関連において、強化の魅力と独自性をどう図るか―
小・中学校における理科・社会科の教科指導のあり方についての考察

2002年４月～新学習指導要領が本格実施になり、学習内容が３割削減され、学校での学習に対する不安として「学力低下」を懸念する声が聞こえていました。私たちは、子どもたちに「学び」の目的をもう一度つかませ、保護者の理解が得られる実践をしていくことが求められていました。また、子どもたちが自己実現していくために「学び方を学ぶ」という「学びの転換」を留りながら、その力が身につくよう工夫していかなければなりません。言い換えれば「生きる力」を育む学習をすすめることです。「生きる力」を育むのは、総合学習を含めた学校教育活動全体を通して育まれるものです。

本書は、総合学習との関連において教科学習をどう魅力あるものにしていくかという視点から、実践し、検証した「実践事例集」です。

主な内容

1. 魅力あり理科学習の工夫と実践　　小学校３年～６年、中学校１年、２年の７事例
2. 魅力あり理科学習の工夫と実践　　小学校３年～５年、中学校２年、３年の６事例

私たちの学校教育改革　第９集　2003年3月発行

千葉県の子ども白書・学校5日制と子どもたちの生活
―子ども・保護者・教職員の実態調査から―

2002年４月から「学校５日制」がスタートし、あわせて、新教育課程や少人数学習、高等学校の入学試験制度の改訂など、さまざまな教育改革が実施されました。

学校５日制のもとで子どもたち、保護者、教職員の実態と意識を中心に調査したものです。

主な内容

1. 小学生（５年生）の実態と意識
2. 中学生（２年生）の実態と意識
3. 保護者（小学５年生と中学２年生の保護者）の学校５日制への意見と意識
4. 教職員の勤務実態と意識

私たちの学校教育改革　第10集　2004年3月発行

見えない学力を育てる
―C学力（関心・意欲・態度）を育てる指導と評価―

私たちは子どもたちの「学力」を高めるために指導し、支援し、評価しますが、学力を「見える学力＝A学力」（知識・理解・技能）、「見える部分と見えない部分がある学力＝B学力」（思考・判断・表現）、「見えない学力＝C学力」（関心・意欲・態度）に分けて考え、「関心・意欲・態度」を高める「指導と評価」を中心とした「実践事例集」です。

主な内容

3．学力と評価
4．魅力ある学習指導の工夫と実践（関心・意欲・態度を重視した授業実践）
小学校：算数科・理科・社会科　　中学校：数学科・社会科・音楽科

私たちの学校教育改革　第11集　2005年3月発行

学校5日制と子どもたちの生活
―子どもたちの満足・保護者の期待・教職員の願い―

2002年４月から学校５日制が実施され、新しい学習指導要領が実施されました。2003年７月に小・中学校教職員1058人を対象に勤務実態調査を行いました。また、2004年７月に小・中学生と保護者1400人を対象に教育実態調査を行いました。２年間にわたる調査の内容と分析資料集です。

主な内容

1.　教職員の勤務実態
2.　子どもたちの学習・学校生活の満足度
3.　先生とのコミュニケーション
4　保健室
5．家庭・地域での生活

私たちの学校教育改革　第12集　2006年3月発行

教育基本法の理念を活かした真にゆとりある学校のあり方

2004年度、2005年度の２年間「教育基本法を活かす」「真にゆとりある学校のあり方」を検討し、実践し、検証した「実践事例集」です。

教育は子どもが主人公であり、子どもの人間的成長・発展のために教育があることを旧教育基本法は示していました。2006年12月に旧教育基本法は改悪されましたが、学校教育に携わる者は、今こそ「平和、民主主義、平等主義」をうたう旧教育基本法を教育活動の根幹に位置づけ、その理念を活かす実践を心がけたいものです。

調査研究委員一覧

和地　滋巳（印旛・委員長）
内山　晃男（船橋・葛飾中）
中広　　渉（東葛・十余二小）
根本みゆき（東総・銚子六中）
小高　英之（夷隅・岬中）
鈴木　　徹（市原市・京葉小）
升川　光博（千葉市・副委員長）
奥村紀美江（市川市・大柏小）
木内　　靖（印旛・遠山中）
酒井　　猛（山武・白里小）
桂　　幸一（安房・天津小）
日暮　　要（千葉市・大推中）
常世田　聡（松戸市・中部小）
田畑　光義（香取・小見川中）
鈴木　　明（長生・早野中）
川名　芳江（君津・高柳小）

協　力　委　員

内田　淳一（山武・増穂北小）
蒔田　民之（長生・五郷小）

編集後記

ちば県民教育文化研究所・調査研究委員会は、千葉県教職員組合・学校教育改革推進委員会より、二〇〇五年四月に「総合的な学習の時間」が各学校でどのように実施されているのか実態を把握すること、望ましいあり方の研究を内容とする「各学校における『総合的な学習の時間』調査・研究」の諮問を受けました。二〇〇五、二〇〇六年度と全県での調査を実施し、教育現場での実践で検証しながら研究してきました。

調査研究委員は、全員県内の小・中学校の教職員です。研究は土曜日、日曜日、夏期・冬期休暇などに行っています。

「総合的な学習の時間」につて教職員を対象のアンケートの詳しい内容は、二〇〇六年二月一日発行の「ちば県民教育文化研究所だより・第八号」に掲載しています。残部が少しありますので必要な方はご連絡ください。

「私たちの学校教育改革第十三集『総合的な学習の時間』の充実のために」についてのご感想、ご意見、ご批判などをお寄せください。

〒260―0013
千葉市中央区中央4―13―10
ちば県民教育文化研究所
☎043―224―0484